

城 東 百 選

区分	番号	タイトル	著者名	出版社	分類	内容紹介
人文科学	1	ソクラテスの弁明	プラトン	光文社	131.3	不敬神の罪で告発されたソクラテスは、法廷で自らの罪状への弁明を述べ、哲学者としての生を弁証し、死刑判決後、最期のことばを遺す。ソクラテスの裁判、そして生と死の真実を後世に伝えたプラトン対話篇の最高傑作。
人文科学	2	性格の科学 複雑で豊かな心の不思議		日経ナショナルシ オグラフィック社	141	科学の進歩により、性格や人格は、従来考えられていたよりもはるかに複雑で素晴らしいものであることがわかってきた。
人文科学	3	手紙屋	喜多川 泰	ディスカヴァー・ トゥエンティワン	159	何のために勉強するんだろう？ 何のために大学に行くんだろう？ 進路に悩む女子高生、和花が「手紙屋」から学んだ、勉強の本当の意味とその面白さは、夢を語ることを忘れた若者が、再び夢を抱くようになるまでの物語。
人文科学	4	中世の窓から	阿部 謹也	朝日新聞社	230.4	中世ヨーロッパに生じた産業革命にも比する大転換——。名もなき人びとの暮らしを丹念に辿り、その全体像を描き出す。
人文科学	5	ルターへの首引き猫	森田安一	山川出版社	230.52	ルターと教皇の一騎打ち。教皇を捕虜に凱旋するルター。木版画をとおして文字を解さぬ人々に伝えられた宗教改革のイメージを鮮やかに描きだす。
人文科学	6	ローマ人の物語 I	塩野 七生	新潮社	232	ローマ人は何故かくも壮大な世界帝国を築き、しかし滅びたのか。塩野七生の、情緒を排した独自の視点から展開される刺激あふれる物語。
人文科学	7	文明の表象英国	近藤 和彦	山川出版社	233.05	日本人の近代文明の模範であり続けた英国。イギリスの社会と歴史を近代化途上という制約の中の日本人がどう受けとめ、またその表象が彼らの考え方をどう喚起してきたか。
人文科学	8	民のモラル	近藤 和彦	山川出版社	233.06	200年まえのイギリスに生きたふつうの男と女。その暮らしともめごと、希望と連帯を丹念に読み解く。民衆文化と政治文化。
人文科学	9	夢と反乱のフョーブル 1848年パリの民衆運動	喜安朗	山川出版社	235.05	1848年、パリの街を舞台にくりひろげられた民衆蜂起の世界。そこに生きた人びとの日常と夢の物語。
人文科学	10	わたしの生涯	ヘレン・ケラー	角川書店	289.3	幼い頃、病魔に冒され、聴力と視力、言葉を失ったヘレン。大きな障害を背負った彼女を、サリバン先生は暖かく励ました。感動の自伝。
人文科学	11	カンジス河でバタフライ	たかの てるこ	幻冬舎	292.09	小心者で英語も口でできないうえ、極度の方向オンチのてるこが、世界25か国をひとり旅。旅人になったワグ、旅人デビュー、旅で出会った世にも不思議な人々などを記録した、痛快旅エッセイ。
人文科学	12	議員が選挙区を選ぶ 18世紀イギリスの議会政治	青木康	山川出版社	312.33	選挙区を移動しながら、下院選挙に出馬する議員たち。彼らはなぜ生涯に何度も選挙区を変えるのか。今日とは異なる、18世紀イギリスの議会政治の実像に迫る。
人文科学	13	通勤電車の人間行動学 男がきれいになる時代・女がかわいくなる時代	小林 朋道	創流出版	361.4	恋愛、流行、育児の裏に秘められた“遺伝子のたくらみ”。エソロジー「動物行動学」に魅せられた現役高校教師が男女の「ふしぎ」を解き明かす。
人文科学	14	世界のエリートが今一番入りたい大学ミネルバ	山本 秀樹	ダイヤモンド社	377.28	資産も実績もゼロの大学に、なぜ世界中から学生が殺到するのか？ 真の教育革命を遂げる「仕組み」をつくりあげた驚異のベンチャー大学「ミネルバ」の全貌を明らかにする。
人文科学	15	ハーメルンの笛吹き男	阿部 謹也	筑摩書房	388.34	13世紀ドイツの小さな町で起こったひとつの事件の謎を、当時のハーメルンの人々の生活を手がかりに解明、これまで歴史学が触れてこなかったヨーロッパ中世社会の差別の問題を明らかにし、ヨーロッパ中世の人々の心的構造の核にあるものに迫る。
自然科学	16	いっしょに考えてみようや	小林 誠	朝日新聞出版社	420	身の回りのあらゆる物質を構成する究極の要素は何か。それを解き明かそうとする素粒子物理学はフォークと呼ばれる基本粒子の存在を突き止めた。
自然科学	17	磁力と重力の発見	山本 義隆	みすず書房	423.02	近代自然科学はどうして近代ヨーロッパに生まれたのだろうか。つきせぬ謎に挑むケース・スタディとして、力概念の形成過程を追跡した心躍る「前」科学史。西洋近代科学技術誕生の謎に真っ向からとりくんだ渾身の書き下ろし。
自然科学	18	ニュートリノで探る宇宙と素粒子	梶田 隆章	平凡社	429.6	ニュートリノが必要になったわけ、カミオカンデの最初の目的、宇宙線の起源……。 「スーパーカミオカンデ実験」に参加した宇宙物理学者が、ニュートリノの基礎理論から最新の発見まで、誰にでも直感的にわかるよう解説する。
自然科学	19	神の素粒子ヒッグス	小林 富雄	日本評論社	429	2012年、ノーベル物理学賞につながるヒッグス粒子が発見された。標準理論の成り立ちを、数式を交えてわかりやすく解説し、標準理論が実験的に確かめられていった過程を眺め、ヒッグス粒子とその背後にある物理に迫る。
自然科学	20	ゲノム編集の衝撃	NHK「クローズアップ」取材班	NHK出版	467.25	エイズやガンを治し、食料問題を解決する！？ 遺伝子を自在に設計し、生物を変えるテクノロジー、ゲノム編集。その驚くべき実態を最前線への取材を基に解き明かす。国内第一人者、山本卓のインタビューも収録。
自然科学	21	ワニはいかにして愛を語り合うか	竹内久美子/日高敏雅	新潮社	481	動物たちは結構うまく意思を伝えているようになのに、すごく頭がいいはずの人間はなぜ、自分の気持ちが分かってもらえないと悩むのでしょうか。それは昔ワニだったことを、私たち人間が忘れてしまったからなのです。
自然科学	22	沈黙の春	レイチェル・カーソン	新潮社	519	自然破壊にとどまらず人間の生命の核、遺伝子攻撃へと環境問題が加速度的に複雑化、深刻化しつつある今日、その危機を40年近く前にいち早く指摘し、孤立無援のうちに出版された名著。
自然科学	23	キャット・ウォッチング 1	デズモンド・モリス	平凡社	645	なぜ、喉を鳴らすのか？ 「なぜ、前足であなたの膝を叩くのか？」。猫の行動のナゾを明快に解き明かすモリスの伝説的ベストセラーに、岩谷光昭が選りすぐりの写真を加えた新装版。
中国文学	24	史記	横山光輝	小学館	726	司馬遷は、歴史書の執筆に取り組み、約10年の歳月ののち、全130巻にも及ぶ歴史書を書き上げた。彼が命を懸けて記した一大歴史書『史記』を横山光輝のマンガで。

日本文学	25	文庫日記	田辺 聖子	新潮社	910.4	『古事記』『萬葉集』から若山牧水まで、民族の遺産として私たちに残されたおびただしい古典の中から、著者が長年つくしんできた作品の数々を、女性ならではのこまやかな眼と、平明な文章で紹介し、味わい深い古典の世界へと招待してくれる名エッセイ集。
日本文学	26	智恵子抄	高村 光太郎	新潮社	911	情熱のほとばしる恋愛時代から、短い結婚生活、夫人の発病、そして永遠の別れ……智恵子夫人との間にかわされた深い愛を詠う詩集。
日本文学	27	歌よみに与ふる書	正岡 子規	岩波書店	911.104	正岡子規の歌論書。新聞『日本』に1898年（明治31）2月11日より3月4日まで10回にわたって連載。
日本文学	28	父と暮せば	井上 ひさし	新潮社	912.6	愛する者たちを原爆で失った美津江は、一人だけ生き残った良い目から、恋のときめきからも身を引こうとする。そんな娘を思いやるあまり『恋の応援団長』をかかってでて励ます父・竹造は、実はもはやこの世の人ではない――。
日本文学	29	まろ、ん？	小泉 吉宏	幻冬舎	913.36	あの光源氏が、かわいいキャラ「まろ、ん？」に变身！ 1帖8コマ漫画で読む『源氏物語』全54帖。これ1冊で全部読んだ気になる。
日本文学	30	羅生門・鼻	芥川 竜之介	新潮社	913.6	辛辣な批評、洒落な風知。技巧にたけ、一作ごとに語り口を変え、趣向を凝らした短篇8作。これも短篇の名手、芥川の真骨頂!
日本文学	31	蒼穹の昴	浅田 次郎	講談社	913.6	中国清朝末期、貧しき貧しい少年・春児は、占い師の予言を信じ、科学の試験を受ける幼なじみの兄貴員・文秀に従って都へ上った。都で袂を分かち、それぞれの志を胸に歩み始めた二人を待ち受ける宿命の霸道。
日本文学	32	砂の女	安部 公房	新潮社	913.6	砂丘へ昆虫採集に出かけた男が、砂穴の底に埋もれていく軒先に閉じ込められる。考えつく限りの方法で脱出を試みる男。
日本文学	33	華岡青洲の妻	有吉 佐和子	新潮社	913.6	世界で初めて全身麻酔に挑み、乳がんの摘出手術に成功した江戸後期、紀州の名医、華岡青洲。その成功に不可欠だった麻酔薬の人体実験に、妻と母は進んで身を捧げた。
日本文学	34	阪急電車	有川 浩	幻冬舎	913.6	隣に座った女性は、よく行く図書館で見かけるあの人だった…。片道わずか15分のローカル線で起きる小さな奇跡の数々。
日本文学	35	生れ出づる悩み	有島 武郎	集英社	913.6	自分の才能を信じて夢を追うのか、それとも今このままの現実を生きていくのか。画家になりたいという一途な想いを抱きながらも、家族の生活を支えるために、漁師という過酷な労働に従事しなければならぬ青年
日本文学	36	ゴールデンランパー	伊坂 幸太郎	新潮社	913.6	衆人環視の中、首相が爆殺された。そして犯人は俺だと報道されている。なぜだ？何が起きているんだ？俺はやっていない――。
日本文学	37	一握の砂・悲しき玩具	石川 啄木	新潮社	913.6	天才歌人・啄木は貧困に苦しみながらも、新しい明日への情熱を持ち続け、二十六歳で亡くなった。亡くなる一年前出版した『一握の砂』の歌に、啄木はさまざまな悪匠を凝らし、命を吹き込んだ。
日本文学	38	沈黙	遠藤 周作	新潮社	913.6	神の存在、背教の心理、西洋と日本の思想的断絶など、キリスト信仰の根源的な問題を衝き、〈神の沈黙〉という永遠の主題に切実な問いを投げかける長編。
日本文学	39	海と毒薬	遠藤 周作	角川書店	913.6	生きたままの人間を解剖する――戦争末期、九州大学附属病院で実際に起こった米軍捕虜に対する残虐行為に参加したのは、医学部助手の小さな青年だった。
日本文学	40	野火	大岡 昇平	新潮社	913.6	敗北が決定的となったフィリピン戦線で結核に冒され、わずかに数本の手を渡されて本陣を退散された田村一等兵。野火の燃えひろがる原野を彷徨う田村は、極度の飢えに襲われ、自分の血を吸った蛭まで食べなければ、友軍の屍体に目を向ける…。
日本文学	41	ツバキ文具店	小川 糸	幻冬舎	913.6	伝えられなかった大切な人への想い。あなたに代わって、お届けします。ラブレター、鉛筆状、天国からの手紙…。鎌倉で代書屋を営む鳩子の元に、今日も風変わりな依頼が舞い込みます。『GINGER L.』連載を単行本化。
日本文学	42	博士の愛した数式	小川 洋子	新潮社	913.6	「ぼくの記憶は80分しかもたない」博士の再婚の袖には、そう書かれた古びたメモが留められていた。記憶力を失った博士にとって、私は常に「新しい」家政婦。博士は「初対面」の私に、靴のサイズや誕生日を尋ねた。数字が博士の言葉だった。やがて私の10歳の息子が加わり、きこえない日々は驚きと喜びに満ちたものに変わった。
日本文学	43	食堂かたむわり	小川 糸	ポプラ社	913.6	同棲していた恋人にすべてを持ち去られ、恋と同時にあまりに多くのものを失った衝撃から、倫子はさらに声をも失う。山あいのふるさとに戻った倫子は、小さな食堂を始める。それは、一日一組のお客様だけをもてなす、決まったメニューのない食堂だった。
日本文学	44	夜のピクニック	恩田 陸	新潮社	913.6	小さな賭けを胸に秘め、貴子は高校生活最後のイベント歩行祭にのぞむ。誰にも言えない秘密を清算するために――。永遠普遍の青春小説。
日本文学	45	檸檬	梶井 基次郎	新潮社	913.6	31歳という若さで夭折した著者の残した作品は、昭和文学史上の奇蹟として、声はいよいよ高い。その異常な美しさに魅惑され、買い求めた一箱のレモンを洋書店の書棚に残して立ち去る『檸檬』、人間の苦悩を見つめて凄絶な『冬の日』、生きものの不思議を象徴化する『憂鬱』ほか『城のある町にて』『城の絵巻』など、特異な感覚と内面凝視で青春の不安、焦燥を浄化する作品20編を収録。
日本文学	46	GO	金城 一紀	角川書店	913.6	僕は何者？日本で生まれ、日本で育ったけれど、僕は“在日”と呼ばれる。元ボクサーのオヤジに鍛えられ、これまで喧嘩二十三戦無敗。ある日僕は恋に落ちた。彼女はムチャクチャ可愛らしい“日本人”だった。軽快なテンポとさわやかな筆致で差別や国境を一蹴する、感動の青春恋愛小説。
日本文学	47	雪国	川端 康成	新潮社	913.6	親類の財産で、さまざまな生活を送る島村は、雪深い温泉町で芸者駒子と出会う。許婚者の療養費を作るため芸者になったという、駒子の一途な生き方に惹かれながらも、島村はゆきずりの愛以上のつながりを持ちとうとしない――。
日本文学	48	古都	川端 康成	新潮社	913.6	捨て子であったが京の商家の一人娘として美しく成長した千重子は、祇園祭の夜、自分に瓜二つの村娘君子に出逢い、胸が騒いだ。二人はふたごだった。互いにひかれあい、懐かしみあいがもたらさずぎた環境の違いから一瞬には暮らすことができない……。
日本文学	49	姑獲鳥（うぶめ）の夏 上 分冊文庫版	京極夏彦	講談社	913.6	産の日にて身まかりたりし女、其の執心、此のものとなれり…。日本的な家系の悲劇を浮かびあがらせるミステリ。
日本文学	50	出家とその弟子	倉田 百三	新潮社	912.6	恋愛、性欲、宗教の相剋の問題について、親鸞とその息子普賢、弟子の唯円の葛藤を軸に「教義抄」の教えを戯曲化した宗教文学の名作。

日本文学	51	おとうと	幸田 文	新潮社	913.6	高名な作家で、自分の仕事に没頭している父、悪意はないが冷たい祖母、夫婦仲もよくはなく、経済状態もよくない。そんな家庭の中で十七歳のけんは三つ連いの弟に、母親のようないたわりをしめしているが、弟はまもなくすれた毎日をおくるようになり、結核にかかってしまう。事実をふまえて、不良少年とよばれ若くして亡くなった弟への深い愛憎の情をこめた看書と終焉の記録。
日本文学	52	五重塔	幸田 露伴	岩波書店	913.6	技量はあるながらも小才の利かぬ性格ゆえに、「のっそり」とあだ名で呼ばれる大工十兵衛。その十兵衛が、義理も人情も捨て、谷中感応寺の五重塔建立に一身を捧げる。エゴイズムや作偽を越えた魔性のものに憑かれ、翻弄される職人の姿を、求心的な文体で浮き彫りにする文豪露伴の傑作。
日本文学	53	革命のライオン	佐藤 賢一	集英社	913.6	フランス革命を描きつづき超大作 時は1789年。破産の危機に瀕したフランス王国で、苦しむ民衆が国王と貴族を相手に立ち上がった。男たちの理想が、野望が、執念が、歴史を大きく動かしてゆく。
日本文学	54	カエサルを撃て	佐藤 賢一	中央公論新社	913.6	紀元前五十二年、美しくも残忍な若者ウエルキングトリクスは混沌とするガリア諸族を纏め上げ、侵略を続けるローマに牙を剥いた。対するローマ総督カエサルはボン・ヘイウスへの劣等感に苛まれていた…。ガリア王とローマの英雄が繰り広げる熾烈な戦いの果てに、二人は何を見たのか。
日本文学	55	コンスタンティノープルの陥落	塩野 七生	新潮社	913.6	地中海に君臨した首都をめぐる、キリスト教世界とイスラム世界との激しい覇権闘争を、豊富な資料を駆使して描く、甘美でスリリングな歴史絵巻。
日本文学	56	暗夜行路	志賀 直哉	新潮社	913.6	祖父と母との過失の結果、この世に生を受けた謙作は、母の死後、突然目のあらわれた祖父に引きとられて成長する。鬱々とした心をもてあまして日を過ぎ謙作は、京都の娘直子を恋し、やがて結婚するが、直子は謙作の留守中にいとこと過ちを犯す。
日本文学	57	城の崎にて・小僧の神様	志賀 直哉	新潮社	913.6	秤屋ではたらく小僧の体験をユーモアたっぷりに描く「小僧の神様」、作者自身の経験をもとに綴った「城の崎にて」など、志賀直哉の代表的な短篇作品を収録。
日本文学	58	項羽と劉邦	司馬 遼太郎	新潮社	913.6	沛のごろつき上がりの劉邦が、楚の猛将・項羽と天下を争って、百戦しつづついに楚を破り漢帝国を樹立するまでをとおし、天下を制する“人望”とは何かをきわめつくした物語である。
日本文学	59	坂の上の雲	司馬 遼太郎	文芸春秋	913.6	近代国家の伸入りをした日本は、息せき切って先進国に追いつこうとしていた。この時期を生きた四国松山出身の三人の男達、コサック騎兵を破った秋山好古、日本海海戦の参謀秋山真之、正岡規を中心に、屈指の時代・明治の群像を描く長編小説八冊。
日本文学	60	八朔の雪	高田 郁	角川春樹事務所	913.6	神田御台所町で江戸の人々には馴染みの薄い上方料理を出す「つる家」。店を任せ、調理場で腕を振るう淳は、故郷の大坂で、少女の頃に水害で両親を失い、天涯孤独の身であった。料理だけが自分の仕合わせへの道筋と定めた淳の奮闘と、それを囲む人々の人情が繰りなりす、時代小説
日本文学	61	ビルマの豎琴	竹山道雄	新潮社	913.6	ビルマの戦線で英軍の捕虜になった日本軍の兵隊たちにもやがて帰る日がきた。が、ただひとり帰らぬ兵士がいた。なぜか彼は、ただ無言のうち思い出の豎琴をとりあげ、戦友たちが合唱している「はにゆるの宿」の伴奏をはげしくかき鳴らすのであった。
日本文学	62	人間失格	太宰 治	集英社	913.6	「恥の多い生涯を送ってきました」3枚の奇怪な写真と共に渡された睡薬薬中毒者の手記には、その惨憺な半生が克明に描かれていました。無邪気さを装って周囲をあざむいた少年時代、次々と女性に関わり、自殺未遂をくり返しながら薬物におぼれていくその姿。「人間失格」はまさに太宰治の自信であり遺書であった。作品完成の1か月後、彼は自らの命を断つ。
日本文学	63	春琴抄	谷崎 潤一郎	KADOKAWA	913.6	琴曲の名手で盲目の春琴にあてがわれた世話係の佐助は、やがて春琴と切っても切れない深い仲になっていく。ある日、春琴が顔に熱湯を浴びせられるという事件が起こり…。異常なまでの献身によって表現される、愛の倒錯の物語。
日本文学	64	銀の匙	中 勘助	KADOKAWA	913.6	書齋の小箱に昔からある銀の匙。それは、臆病で病弱な「私」が口に薬を含むことができるよう、伯母が添えてきてくれたものだった…。明治時代の東京の下町を舞台に、成長していく少年の日々を描いた自伝的小説。
日本文学	65	李陵・山月記	中島敦	新潮社	913.6	人はいかなる時に、人を捨てて畜生に成り下がるのか。 中国の古典に想を得て、人間の心の深奥を描き出した「山月記」。母国に忠誠を誓う李陵、孤独な文人・司馬遷、不屈の行動人・蘇武、三者三様の苦難と運命を描く「李陵」など名作4編を収める。
日本文学	66	文鳥・夢十夜	夏目 漱石	新潮社	913.6	人に勧められて飼いだした可憐な文鳥が主人のちょっとした不注意からあつげなく死んでしまふまでを淡々とした筆致で描き、著者の孤独な心持をにじませた名作『文鳥』。意識の内部に深くわたる恐怖・不安・虚無などの感情を正面から凝視し、〈裏切られた期待〉〈人間的意志の無力感〉を無気味な夢語を漂わせつつ描き出した『夢十夜』ほか。
日本文学	67	三四郎	夏目 漱石	新潮社	913.6	熊本の高専学校を卒業して、東京の大学に入学した小川三四郎は、見る物聞く物の総てが目新しい世界の中で、自由気楽な都会の女性里見美彌子に出会い、彼女に強く惹かれてゆく…。青春の一時期において誰もが経験する、学問、友情、恋愛への不安や戸惑いを、三四郎の恋愛から失恋に至る過程の中に描いて「それから」「門」に続く三部作の序曲をなす作品である。
日本文学	68	にごりえ・たけくらべ	樋口 一葉	新潮社	913.6	前編の身を撲きつつ日を送る菊の井のお力のはかない生涯を描いた「にごりえ」。東京の下町を舞台に、思春期の少女少女の姿を描く「たけくらべ」。吉原遊廓という闊の空間とその周辺に生きる人びとに目を向けた一葉の名篇を収める。
日本文学	69	ハプスブルクの宝剣	藤本 ひとみ	文芸春秋	913.6	オーストリア・ハプスブルク家の女王マリア・テレジアと、その夫君、大公フランツに仕える、辣腕の若きユダヤ青年のロマンと野望。
日本文学	70	ウィーンの密使	藤本 ひとみ	講談社	913.6	オーストリアの青年士官ルーカスは皇帝の密命を受け、フランス王妃マリー・アントワネットの元に向かう。フェルゼンとの恋に身を焼くアントワネットを説得し、ミラボー、ダントン、ロベスピエールらを利用して、革命阻止をはかるルーカスに迫る影。王妃が皇帝にあてた密書とは。激動の二部に展開する大河ロマック。
日本文学	71	風立ちぬ・美しい村	堀 辰雄	新潮社	913.6	風のように去ってゆく時の流れの裡に、人間の肉体を捉えた『風立ちぬ』は、生きることよりは死ぬることの意味を問ひ、同時に死を越えて生きることの意味をも問うている。パッサの過走曲に思いついたという『美しい村』は、軽井沢でひとり暮らしをしながら物語を構想中の若い小説家の見聞と、彼が出会った少女の面影を、音楽的に構成した傑作。
日本文学	72	点と線	松本 清張	新潮社	913.6	汚職にからんだ複雑な背景と殺害時刻に容疑者は北海道にいたという鉄壁のアリバイの前に立ちすくむ捜査陣…。列車時刻表を駆使したリアリティックな状況設定で、推理小説界に“社会派ミステリー”の新风を吹きこみ、史上空前の推理小説ブームをまきおこした名作。
日本文学	73	氷点	三浦 綾子	角川書店	913.6	辻口は妻への屈折した憎しみと、「汝の敵を愛せよ」という教えの挑戦とで殺人犯の娘を養女にした。明るく素直な少女に育っていく陽子…。人間にとって原罪とは何かを追求した不朽の名作。
日本文学	74	塩狩峠	三浦 綾子	新潮社	913.6	結納のため札幌に向った鉄道職員永野信夫の乗った列車が、塩狩峠の頂上にさしかかった時、突然客車が覆れ、暴走し始めた。声もなく恐怖に怯える乗客。信夫は飛びつくようにハンドブレーキに手をかけた…。明治末年、北海道旭川の塩狩峠で、自らの命を犠牲にして大勢の乗客の命を救った一青年の、愛と信仰に貫かれた生涯を描き、人間存在の意味を問う長編小説。
日本文学	75	舟を編む	三浦/しをん	光文社	913.6	辞書編集部に異動した馬場は「大渡海」の編纂を始める。個性のすざる仲間たち、問題山積みの編集部、ままたらぬ恋…。愛すべき人たちが恋に仕事に右往左往。「大渡海」は編み上がるのか? 「馬場の恋文」も全文収録。

日本文学	76	金閣寺	三島 由紀夫	新潮社	913.6	1950年7月1日、「国宝・金閣寺焼失。放火犯人は寺の青年僧」という衝撃のニュースが世人の耳目を驚かせた。この事件の陰に凝められた若い学僧の悩み—ハンディを背負った宿命の子、生への消しがたい呪いと、それゆけに金閣の美の魔力に魂を奪われ、ついには幻想と心中するにいたった悲劇…。31歳の鬼才三島が全青春の決算として告白体の名文に纏った不朽の金字塔。
日本文学	77	曇子	宮城谷 昌光	講談社	913.6	国が、君主が、権力と利を求めて右往左往するなかで、人はいかにふるまうか。乱世に一筋の生き方を貫き、司馬遷がその御者になりたいと語った春秋時代の齊の名宰相晏子。父晏弱將軍との父子二代にわたる見事な生を描く。
日本文学	78	業毅	宮城谷昌光	新潮社	913.6	古代中国の戦国期、「戦国七雄」にも数えられぬ小国、中山国宰相の嫡子として生まれた業毅は栄華を誇る大國・齊の都で己に問う。人が見事に生きるとは、どういうことか。諸子百家の気風は魅せられ、齊の都に学んだ青年を祖国で待ち受けていたのは、国家存立を脅かす愚昧な君主による危うい蛇取りと、隣國・趙の執拗な侵略だった。才知と矜持をかけ、若き業毅は祖国の政変を模索する。
日本文学	79	友情・初恋	武者小路 実篤	集英社	913.6	脚本家野島と、新進作家の大宮は、厚い友情で結ばれている。野島は大宮のいとこの友人の杉子を熱愛し、大宮に助力を願うが、大宮に心惹かれる杉子は野島を拒否し、パリに去った大宮に愛の手紙を送る。野島は失恋の苦しみに耐え、仕事の上で大宮と決闘しようとする。
日本文学	80	ノルウェイの森	村上 春樹	講談社	913.6	暗く重たい雨雲をくぐり抜け、飛行機がハンブルク空港に着陸すると、天井のスピーカーから小さな音でビートルズの「ノルウェイの森」が流れ出した。僕は一九六九年、もうすぐ二十歳になることとする秋のできごとを思い出し、激しく混乱し、動揺していた。限らない喪失と再生を描き新境地を拓いた長編小説。
日本文学	81	69 sixty nine	村上 竜	集英社	913.6	流されて生きるのはまっぴらだ!全共闘、ビートルズ。これらの言葉が、まだ思い出ではなかった'69年、佐世保。17歳の僕は世間に反抗し、刺激的な青春を駆け抜けていた。
日本文学	82	阿部一族・舞姫	森 鴉外	新潮社	913.6	許されぬ殉死に端を発する阿部一族の悲劇を通して、高揚した人間精神の軌跡をたどり、権威と秩序への反抗と自己救済を主題とする歴史小説の逸品『阿部一族』。ドイツ留学中に知り合った女性への愛情をふりきって官達を選んだ主人公を描いた自伝的色彩の強いロマン『舞姫』ほか。
日本文学	83	路傍の石	山本 有三	新潮社	913.6	極貧の家に生まれた愛川吾一は、貧しきゆえに幼くして奉公に出される。やがて母親の死を期に、ただ一人上京した彼は、苦勞の末、見習いを経て文筆工となつてゆく。厳しい境遇におかれながらも純真さを失わず、経済的にも精神的にも自立した人間になろうと努力する吾一少年のひたむきな姿。
日本文学	84	ヒロシマ・ノート	大江 健三郎	岩波書店	914.6	広島は悲劇は過去のものではない。一九六三年夏、現地を訪れた著者の見たものは、十数年後のある日突如として死の宣告をうける被爆者たちの「悲劇と威厳」に満ちた姿であり医師たちの献身であった。著者と広島とのかわりには深まり、その報告は人々の胸を打つ。平和の思想の人的基盤を明らかにし、現代という時代に対決する告発の書。
日本文学	85	「自分の木」の下で	大江 健三郎	朝日新聞社	914.6	本書は著者が初めて書いた子ども向けの本である。自伝的要素が強く、不登校、生きる理由と方法、自殺、言葉、戦争、反戦運動、勉強の方法などをテーマに、悩める子どもたちへの真摯（しんしん）なメッセージが著者自身の体験と共ににつづられる。
日本文学	86	ポケットに名言を	寺山 修司	角川書店	914.6	世に名言、格言集の類は数多いけれど、本書ほど聖破りな名言集は珍しいのではないかと。歌謡曲あり、懐かしい映画のセリフあり、かと思つた、サルトル、サンテグジュペリ、マルクス…。しかもめくれば見えたり、読むのではなく、Tシャツでも着るようにもっと気軽に名言を自分のものにしてしまいたいと思ひ出にすぎない言葉が、ときには世界全部の重さと釣り合うことがあるのだから。
外国文学	87	ロミオとジュリエット	シェイクスピア	新潮社	932.5	モンテギュー一家の一人息子ロミオは、キャピレット家の舞踏会に仮面をつけて忍びこんだが、この家の一人娘ジュリエットと一目で激しい恋に落ちてしまった。仇敵同士の両家に生まれた二人が宿命の出会いをし、月光の下で永遠の愛を誓い合ったのもつかの間、かなしい結局をむかえる話はあまりにも有名であり、現代でもなお広く翻訳劇がなされている。
外国文学	88	シェイクスピア全集	シェイクスピア	筑摩書房	932.5	もし借金が返せなければ、その体から1ポンドの内を切りとらせろ。ユダヤ人の金貸しシャイロックが要求した証文が現実となった。ヴェニスの法廷が下した驚くべき判決とは?そして裁判官の正体は?商業都市ヴェニスとロマンティックな愛の都市ヴェロナを舞台に、お金とセックスの陰謀をちりばめて繰り広げられる喜劇。
外国文学	89	ライ麦畑でつかまえて	J. D. サリンジャー	朝日新聞社	933	歯切れのよい文体で、思春期待有少年の心理をみごとに描き上げた、サリンジャーの世界的ベストセラー。
外国文学	90	怪談	ラフカディオ・ナウン	岩波書店	933	日本を終生愛してやまなかったハーン(一八五〇—一九〇四)が我が国古来の文獻や民間伝承に取材して創作した短篇集。有名な「耳なし芳一のはなし」など、奇怪な話の中に寂しい美しさを湛えた作品は単なる怪奇小説の域をこえて、人間性に対する深い洞察に満ちている。
外国文学	91	老人と海	アーネスト・ヘミングウェイ	新潮社	933	キューバの老漁夫サンチャゴは、長い不漁にもめげず、小舟に乗り、たった一人で出漁する。残りわずかな餌に想像を絶する巨大なカジキマグロがかかった。4日にわたる死闘のち老人は勝ったが、帰途サメに襲われ、弱りにくりつけた獲物はみるみる食いぢりされてゆく…。徹底した外面描写を用い、大魚を相手に雄々しく闘う老人の姿を通して自然の厳粛さと人間の勇気を詠う名作。
外国文学	92	オー・ヘンリー傑作選	オー・ヘンリー	岩波書店	933.7	絶妙のプロット、独特のユーモアとベース。この短篇の名手は時代と国境をこえて今も読者の心を抱えつつづけている。「賢者の贈り物」ほか。
外国文学	93	モリー先生との火曜日	ミッチ・アルボム	講談社インターナショナル	936	難病ALS(筋萎縮性側索硬化症)に侵されていたモリー先生は、「あと4ヵ月か5ヵ月の命かな」と言った。ふたりだけの火曜日の授業が始まった。愛、社会、家族、老い、許し、そして死について、あなたには、本当の先生と呼べる人がいますか。
外国文学	94	変身	フランツ・カフカ	新潮社	943	ある朝、気がかりな夢から目をさますと、自分が一匹の巨大な虫に変わっているのを見つめる男グレゴル・ザムザ。なぜ、こんな異常な事態になってしまったのか…。謎は究明されぬまま、ふだんと変わらない、ありふれた日常が過ぎていく。事実のみを冷静につたえる。まるでレポートのような文体が読者に与えた衝撃は、様々な解釈を呼び起こした。海外文学最高傑作のひとつ。
外国文学	95	車輪の下	ヘッセ	集英社	943	南ドイツの小さな町。父親や教師の期待を一身に担ったハンス少年は、猛勉強の末、難関の神学校入試にパス。しかしその厳しい生活に耐えきれず、学業への情熱も失せ、脱走を企てる。「教育」という名の重圧に押しつぶされてゆく多感な少年の哀しい運命をたどる名作。
外国文学	96	異邦人	カミュ	新潮社	953	太陽の眩しさを理由にアラビヤ人を殺し、死刑判決を受けたのちも幸福であると確信する主人公ムルソー。不条理をテーマにした、著者の代表作。
外国文学	97	星の王子さま	サンテグジュペリ	新潮社	953	砂漠に飛行機で不時着した「僕」が出会った男の子。それは、小さな小さな自分の星を後にして、いくつもの星をめくってから七番目の星・地球にたどり着いた王子さまだった…。一度読んだら必ず宝物にしたいくなる物語。
外国文学	98	はつ恋	ツルゲーネフ	新潮社	983	16歳のウラジミールは、別荘で零落した公爵家の年上の令嬢ジナイダと出会い、初めての恋に気も狂わんばかりの日々を過ごす。だが、ある夜、彼女のもとへ忍んで行く目撃、正体を知って驚愕する……。恋愛小説の古典的名作。
外国文学	99	罪と罰	ドストエフスキー	新潮社	983	鋭敏な頭脳をもつ貧しい大学生ラスコーリニコフは、一つの微細な罪悪は百の善行に償われるという理論のもとに、強欲非道な高利貸の老妻を殺害し、その財産を有効に転用しようとするが、偶然その場に会ったその妹まで殺してしまう。この予期しなかった第二の殺人が、ラスコーリニコフの心に重くのしかかり、彼は罪の意識におびえるみじめな自分を発見しなければならなかった。
外国文学	100	戦争と平和	トルストイ	新潮社	983	19世紀初頭、ナポレオンのロシア侵入という歴史的大事件に際して発揮されたロシア人の民族性、貴族社会と民衆のありさまを余すところなく描きつづけることを通して描きあげた一大叙事詩。